

	評価項目	評価点	自己点検・自己評価総括
1	教育理念・目的・育成人材像	3	・教育理念や目的は教育上の特徴を明文化できていると考えるが、学生や保護者に対して周知され徹底しているかは、まだ十分とは言えないと考える。今後、意識するよう働きかけていく必要がある。また社会の変化やニーズの対応することについては、学生がもっと認識できるように働きかけていく必要がある。助産師科廃止に伴う高校や学生への信頼回復が必要である。
2	学校運営	3.3	学校運営について必要な規定やシステムは整えているが、運用面での改善は必要と考えており、必要に応じて再度点検等を行い、整備する必要がある。 教務システムは運用面での検証を行わなければならない。
3	教育活動	3.1	新カリキュラムの編成ができた。3ポリ(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)も提示できた。しかし、アセスメントポリシーについては至っていないため、今後委員会を継続していく必要がある。
4	学修成果	3.3	国家試験は各学年の担任が主体となって計画、実施しているが、3学年間の関連性を持たせてはいない。今後学生自身が自分事として主体的に国家試験対策に迎えるような仕組み作りが必要である。また就職活動はほぼ100%決定できている。しかし、指導助言の学生の満足度は低い為、悩んでいても自分からアプローチとできていない学生がいる可能性がある。チュータの教員の関わり方の検討が必要
5	学生支援	2.7	学生支援としては、学習面生活面ともに支援を行っているが、新型コロナウイルス感染の影響を受けできていないところもある。2～3年生への就職活動への支援体制を整える。また、保護者との連携体制の取り方を検討する。ホームカミングデーなどを設け、卒業生への支援体制を検討することが必要である。
6	教育環境	3.0	・施設設備に関しては、今後シュミレーション教育に必要なモデル人形等を活用できるようにしていく必要がある。・教育体制については、講義に関しては、アクティブラーニングと中心とした教育方法を取り入れていくこと。教育評価に関してもルーブリック評価を取り入れ学生への教育環境の改善に努力している。また、防災マニュアルを作成していく必要がある。
7	学生の受け入れと募集	3.4	入試に対する問い合わせや学納金への配慮など、学生への受入れに対する対応はできている。また、募集に対する対応も新しいことを取り入れながら努力している。助産師科廃止に伴う連絡の遅さによる高校や保護者の信頼回復に努める。
8	財務	4.0	学納金等の今期の収入は、前年度と比べほぼ横ばいとなっており、経費は、昨今の経済情勢により光熱費が大幅に増加している。少子化等の影響により学生の募集に苦戦しており学納金の前受金が減少。理事長の交代による人件費増加以外は適切な予算の執行が行われている。
9	法令等の順守	3.1	専修学校設置基準及び関係法令は遵守している。また、就業規則にハラスメント防止規定、個人情報保護を含む必要な諸規定を整備し運用している。 自己点検評価は、現在は学科長が点検評価したものを校長が取りまとめしており、継続的な自己点検評価システムの構築が必要と考えている。
10	社会貢献・地域貢献	3	・公開講座や学園祭等を利用し、地域社会に貢献できるように学校を開放したり、学校で地域の人に役立つような学びの場を提供していくことは不十分である。コロナ禍前は、学生のボランティア活動に場がたくさん見られたが、現在その場も少ない状況である。